

平成30年3月31日

新潟市立乳児院  
平成29年度 事業報告書

指定管理者

社会福祉法人 愛宕福社会

理事長 池田 弘

## 1. 管理運営業務の実施状況

質の向上の取り組みとしては、家庭支援、里親支援について児童相談所と連携しながら、個別支援を丁寧に実施した。各保護者、里親に対し、面会時の様子や会話、児童相談所からの情報をもとに、エンパワメントの視点を持ちつつ支援ができるように、アセスメントの工夫を行った。

また、グループケアも一歩進め、朝食はユニットキッチンで作り、調理する姿や料理の匂いなどが子どもに届くような取り組みも開始した。施設という枠、職員体制の中で出来る限り家庭的な養育を行う布石の年となった。

年間を通しての懸案事項としては、措置施設であるための入所数の減少が挙げられる虐待等による乳児院への入所や一時保護はないに越したことはなく、また、入所、一時保護になったとしてもなるべく早期に家庭に戻り、または里親家庭に行くことが子どもにとってのパーマネンシーの保障へつながると考え、各児童相談所と連携して業務に取り組んできた。その結果、入所児数は減少したが、運営の視点から見ると、入所児数の減少に伴い暫定定員が設定されることにより経営、養育の質に不安定さをもたらしている現状があった。

## 2. 苦情及び要望等の受付状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 3. 里親研修受け入れ

月 日	里親の区分・組数	管轄児相	実習内容
7月14日15日	養育里親 1組(2人)	新発田	養育の手技・乳幼児との関わり
8月 6日 7日	養育養子縁組里親1組(2人)	三条市	養育の手技・乳幼児との関わり
11月9日10日	養育養子縁組里親1組(2人)	新潟市	養育の手技・乳幼児との関わり
1月26日27日	養育里親1人 養育養子縁組里親1人	新潟市	養育の手技・乳幼児との関わり

\*研修終了後にアンケート実施：満足度100%

## 4. 実習生受け入れ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	0	1

合計受け入れ数7名

\*実習生がより子どもを理解できるような体制での実習を行った。

\*8月は社会福祉士の実習を受け入れた。

## 5. ボランティアの受け入れ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	11	22	16	16	17	16	16	17	4	9	9	9

合計受け入れ数 162名 H28 97名 65名増

\*定期ボランティア4名 後半は感染症の流行 定期ボランティア1名が家庭の事情で中止となる

## 6. マニュアルの改訂

マニュアルの差し替えについては、今年度は養育形態の変更に次ぐ変更、試行錯誤の状況が多く平成30年度に向けての養育の手順の見直しの準備期間となった。平成30年度にマニュアルの大幅改訂を行うよう計画をした。

## 7. 収支決算書

別紙参照

## 8. 自主事業

離乳食講座の実施（大人の人数のみ記載）

9月20日	4名	10月18日	3名
12月20日	4名	2月28日	3名
3月14日	2名		

5回実施 述べ16名参加

離乳食講座に関しては、施設の有する機能を活かし、少人数での調理体験や会話を通し、普段の悩みなどが気軽に相談できる関係づくりも目的にして開催した。利用者からは次回も期待する声があがり好評だった。BP プログラムからの継続した支援は継続的な支援が見込まれ有効であると感じた。次年度は、自主事業ではなく、乳児院本体事業として位置付け委託事業である BP プログラムからの継続した離乳食講座を実施していく計画としたい。また、このような支援は、小規模施設のよいところであるので、「ひとりのための丁寧な支援」というところも心掛けていきたい。

## 9. 要求水準・目標値

今年度も里親研修の受け入れを実施した。予定は5組だったが、感染症流行や里親実習者の都合等により1組は次年度持越しとなっている。里親研修後に実施したアンケート調査では満足度としては100%となっている。

安心安全の確保としては、防災防犯訓練の実施方法の工夫を行い、一定の状況が常ではない乳児院の状況の中で、各職員が臨機応変に自分で考えて避難や対応ができるような訓練方法を試行し、次年度も継続することとした。また、ヒヤリハットも今年度も1112件の報告があり、昨年に引き続きヒヤリハットの意識の徹底が継続して行われることで大きな事故につながらない、気づきを大切にする方針の徹底を図った。